

エムズ・デーリィ・ラボ便り

「冬は黄色ブドウ球菌感染に注意」

潜在性乳房炎原因菌としての黄色ブドウ球菌を含むブドウ球菌の特徴は**皮膚常在菌**だということです。したがって、乳頭皮膚でも生息しております。

冬期は、乳頭皮膚が荒れやすい時期であります。搾乳中に温められた乳頭は、搾乳後にテッピングされるので、温められた乳頭が濡れたままで寒気にさらされることとなります。これは乳頭皮膚や乳頭口にとって非常にストレスであり、皮膚が荒れて損傷する原因となります。冬期の乳牛の乳頭はヒビやアカギシ等の損傷を受ける可能性が高いのです。

黄色ブドウ球菌は毒性も感染力も強く、皮膚の損傷部などでコロニーを形成して増殖します。したがって、黄色ブドウ球菌にとっては、写真で示すような冬期の乳頭皮膚や乳頭口の損傷は、コロニーを形成するには非常に良い環境です。乳頭で増殖した黄色ブドウ球菌は搾乳中に乳頭口から乳房内に侵入し乳房炎を発症させる原因となります。したがって、春になってバルクタンク乳中に黄色ブドウ球菌が増加していることは、冬期に感染があったことを示していると考えられます。黄色ブドウ球菌はバルクタンク乳中に検出されてはならない菌であり、原因は黄色ブドウ球菌性乳房炎が原因であると考えられます。黄色ブドウ球菌性乳房炎の多くは潜在性であり、感染後に乳房内で微細コロニーを形成し排菌を始めます。したがって、寒冷ストレスによる乳頭皮膚の損傷により黄色ブドウ球菌が増加がしないように、保湿性高いポストテッピング剤で乳頭皮膚を守ることは非常に重要です。



Frostbitten teats

湯上り乳頭のお肌のケアは重要！！